



公立岩瀬病院

Vol.84

いわせほっとニュース

<http://www.iwase-hp.jp/>

発行日 2019 年 1 月 25 日

〔公立岩瀬病院の基本理念〕

患者さん中心の医療を実践し、地域の皆さんに信頼される病院をめざします。



当院屋上から見た日の出

目 次

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| ◆ 新年のごあいさつ……………2 | ◆ 病院用語ナビ『高額療養費制度』……………5 |
| ◆ Dr's Cafe「治りにくい足のキズ」 ……3 | ◆ 部署紹介「2病棟」 ……5 |
| ◆ 「オープンシステム勉強会」開催……………4 | ◆ 出前講座について……………6 |
| ◆ 健康教室を行っております ……4 | ◆ 健康レシピ……………6 |
| ◆ シリーズ チーム医療 ② ……5 | |



新年のごあいさつ



企業長 伊 東 幸 雄

明けましておめでとうございます。今年は、新天皇の即位、改元という特別な年となりますが、当院にあっても新病棟、外来棟、南棟（産科婦人科診療棟）と整備が進み、今年もより良い環境の中で新年を迎えることが出来ました。これも皆様方のご理解とご支援の賜物であり衷心より感謝申し上げますとともに職員一同、地域の中核病院としてその役割を果たすため努めて参る所存です。

地域医療を取り巻く環境は、超高齢社会と人口減少を背景に厳しさを増してきていますが、今年も引き続き「県地域医療構想」を踏まえた病床機能や「地域包括ケアシステム」への対応、更には地域の病院等相互の連携強化を目指した「地域医療連携推進法人」の設立に向けても主体的に取り組むなど、地域との密接な連携のもと病院運営に当たって参りますのでよろしくお願いいたします。



院 長 三 浦 純 一

新年明けましておめでとうございます。私たちの公立岩瀬病院は明治5年に創立されています。

147年の歴史を刻む中で明治、大正、昭和、平成という4つの時代を通して医療を提供することができています。みなさまからのご支援のおかげと感謝しております。

今年の5月に新しく制定される元号のもとで、公立岩瀬病院の次の時代がはじまります。

私たちは少子高齢化がこの地域でこれ以上進まないよう、子どもを産み育てる環境を支えます。そして医師会や行政、介護関連施設のご支援をいただきながら先進的な医療を提供し、さらには新しい地域包括ケアシステムの構築を目指していきます。



副院長兼看護部長 安 達 恵美子

新年あけましておめでとうございます。

地域の皆様には、日頃よりご支援をいただき心より御礼申し上げます。

「産科婦人科・NICU」が開設し早いもので3年目を迎えました。

病院として「安心して子どもを産み育てることのできる地域づくりのために」病院の果たす役割を模索しながら踏ん張って参りました。

少子高齢化に伴い多様化する医療環境はとても厳しいのがあります。高齢社会の中で、在院日数が短く在宅に戻るための支援をどう整えていけるか、外来の時点から入院先の退院後の生活を見据えた支援ができるよう患者さんやご家族の皆様にご満足いただける看護を提供して参りたいと思います。これからのますますの地域の発展をお祈りしごあいさつと致します。

本年も宜しくお願い申し上げます。



治りにくい足のキズ

足の中でも特に膝から下にかけて、いつまでも治らない傷(難治性潰瘍と言います)に悩まされている方は多いかと思います。原因

は様々ですが、その代表的な例について述べてみます。

①静脈うっ滞性皮膚潰瘍

読んで字の通り、血液を心臓へ還す静脈の流れが滞るために、足に傷ができます。足が浮腫んでいることが多いです。浮腫を解決しないことには解決になりませんので、包帯圧迫やストッキング着用などを行います。寝るときも足を高くして寝ることが大事です。

②虚血性(動脈性)潰瘍

①と異なり末梢の細い動脈が細くなることで、主に足の指先に生じる皮膚潰瘍です。

指先が冷たくなり紫色になることが多く、潰瘍は黒色の壊死となることが多いです。非常に痛みも伴います。

③低温熱傷(やけど)

熱傷の中でも湯たんぽ使用などにより生じる低温熱傷は厄介な傷です。40～60℃ほどの、心地よく感じる温かさのものでも、長時間皮膚に触れることで熱さをあまり感じることなく深部の組織が壊死して深い傷となります。治癒にも時間がかかり、この熱傷の辛いところ

ろは痛みを伴うことです。何より予防が大切。足元を温かくして眠りにつきたいという方は、靴下着用などで対策し、湯たんぽはしっかり布団の外に出すようにしましょう。

④糖尿病性潰瘍

糖尿病による血流障害、神経障害、易感染によって足に傷ができることで、難治性の潰瘍となります。特に血糖コントロールが不良のケースでは、始め小さな傷でも重症化していくことがあります。

糖尿病で足が腐り、切断などという怖い話を聞いたこともあるかと思いますが、そうならないためにも早めの受診をお勧めします。血糖値の改善は内科で治療し、当科では局所洗浄などで足を清潔に保つフットケアについて指導しております。

形成外科では、このようにメスを入れないキズの手当ても外来で日常的に行っています。今回取り上げたキズは、治療に時間がかかるのも事実ですが、ちょっとした足のケアに取り組むことで改善の方向に向かえるものも多くあります。お悩みの方はどうぞご相談ください。



「オープンシステム勉強会」開催



発表する原川医師



発表する小野医師(写真左)

平成30年10月26日(金)オープンシステム勉強会を開催し、須賀川医師会や白河医師会の先生方と病院職員ら約40人が参加しました。この会は、医師・看護師・メディカルスタッフなど医療従事者を対象として、臨床症例をもとに医療技術や知識の向上を目的として開催しています。「臨床症例合同勉強会」として発足し144回開催したのち、平成23年10月に名称を「オープンシステム勉強会」と改め、これまでに71回開催しました。

この日はCPC勉強会(臨床病理検討会)として、病理解剖を行った症例をテーマに公立岩瀬病院臨床研修医2年目の原川康太郎医師が症例発表し、その後、検査科部長の小野伸高医師が剖検診断について詳しく解説しました。発表後には、症例となった患者さんのかかりつけ医として診療していた紹介元の先生をはじめ多くの質問が寄せられ、主治医の大谷聡化学療法科部長もコメントするなど、多方面から医療行為を振り返りました。

この勉強会は日本医師会の生涯教育制度の対象となり、参加いただいた先生方には「日医生涯教育講座参加証」をお渡ししています。原則的に3月と12月を除く毎月第4金曜日19時から開催しています。(都合により第3・第5金曜日に変更する場合がありますので、予めご確認ください)開催案内のFAXをご希望の際は、地域医療連携室までご連絡くださいますようお願いいたします。

地域医療連携室 電話 0248-75-3111内線2114

健康教室を開催しています。

公立岩瀬病院では、糖尿病の患者さんや糖尿病に関心のある方を対象に健康教室を開催しています。1クールで内科医師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、看護師からお話しさせていただきますので、糖尿病に関してさまざまな視点から学べる教室です。

今回は『取り過ぎていませんか?塩分』というテーマでの実施を予定しています。13時から1時間程度の教室ですので興味のある方はぜひご参加ください。参加をご希望の方は、当院までご連絡ください。

第34クール 取り過ぎていませんか?塩分		
2月6日(水) 13:00~	怖いぞ!糖尿病	青野医師
	おいしく食べる減塩テクニック	管理栄養士
2月13日(水) 13:00~	意外と知らない!?薬の飲み方	薬剤師
	糖尿病の合併症の検査を知ろう!	臨床検査技師
2月20日(水) 13:00~	冬の運動の注意点	理学療法士
	がんについて	看護師

※2月6日の医師と栄養士による教室は有料となります。(240円)
※都合により内容等が変更になる場合があります。



シリーズ チーム医療 ②⑩ 『自分の科から見るチーム医療について』

リハビリテーション科技士長 鈴木 一 良



当院のリハビリテーション科は、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)が所属しており、それぞれの専門的立場から急性期リハビリテーションに携わっています。

その専門性を生かし院内では、転倒・転落予防、摂食・嚥下、口腔ケア、褥瘡予防、栄養サポートチーム(NST)、排尿自立支援など他の医療スタッフとチームになり連携しながら患者さんの治療に参加しています。また、退院の近い患者さんで自宅生活に不安がある場合は、実際にご自宅に訪問してリハビリの立場から助言をする退院前訪問指導を実施しております。この時には担当のケアマネージャーやサービス事業所の担当者と連携をし、安心して退院できるようサポートしています。



～「高額療養費制度」とは～

高額療養費制度とは、医療機関や薬局でかかった医療費の自己負担額が、ひと月(月の初めから終わりまで)で一定額を超えた場合に、その超えた金額が支給される制度です。高額療養費制度では、年齢や所得に応じて、ご本人が支払う医療費の上限が定められており、またいくつかの条件を満たすことにより、さらに負担を軽減する仕組みも設けられています。

入院される方は、加入する保険者から事前に「所得区分」の認定証を発行してもらうことにより、窓口での支払を負担の上限額までにとどめることができます。

詳しくは医事課窓口までお問い合わせください。



部署紹介《2病棟》

産科婦人科病棟は平成29年4月オープン、2年が過ぎようとしています。初年度の分娩件数は540件を超え、予定していた件数を大きく上回りました。平成30年度はすでに450件を超える新しい命の誕生を迎えています。また、婦人科疾患の入院患者さんも増加しています。

我々スタッフは、

- ①多職種・地域(保健師・助産師)との連携によって、安心・安全な妊娠・出産・育児を支援する
- ②分娩という人生で数回の貴重な体験が、より幸せな体験となり育児がスタートできるようサポートする
- ③婦人科疾患においては、ライフステージにおいての身体の変化に対して細やかな配慮を心掛けた支援をすることを考えています。

スタートして間もない部署ですが、スタッフ一同心一つに力を合わせて頑張っていきたいと思っています。



出前講座について

地域の皆さまに健康情報・運動や食事療法・医療・介護をもっと身近に感じていただこうと岩瀬病院スタッフが講師としてご希望の地域にお伺いする出前講座を開催しています。集会所や、公民館などで講演会を開いています。地域のなかで健康、介護などご興味のある方はぜひ、お申込み下さい。岩瀬病院の宣伝も兼ねております。出張料は無料となっています。（お問い合わせ：公立岩瀬病院 総務課）



健康レシピ

塩分を気にされる方へ

「ぶりのゆず風味てり焼き」

一人分 エネルギー/147kcal 蛋白質/11.2g 脂質/8.8g
炭水化物/4.1g 塩分/0.8g

《材 料》(1人分)

・ぶり切り身 1切れ(50g) ・サラダ油 小さじ1/2(2g)

★A

・しょうゆ 5g
・みりん 5g
・ゆず搾り果汁 小さじ1(5g)
・ゆずの皮(輪切り) 適量

◎ゆずの皮

飾り用(うす切り) 少々



作り方

- ① ゆずは半分に切って果汁を搾る。
ゆずの皮は飾り用として少し残しておき、その他は輪切りにする。
- ② Aの漬け汁を作る。ゆず果汁と輪切りにしたゆずを調味料と合わせておく。
- ③ ②にぶりの切り身を15分程度漬けておく。
- ④ フライパンに油を敷き、汁気を切ったぶりを並べる。
上にするほうを下にして、焼き色がつくまで中火で焼く。
- ⑤ 焼き色がついたら、裏返して焼く。
火が通ったら、3の残りの漬け汁を加え、とろりとするまで汁を絡める。
- ⑥ 器に盛り付け、ゆずの皮のうす切りを上に乗せる。



表面をカリッと焼くことで香ばしさがでて風味がアップします。さらに、さっぱりとしたゆずの酸味でうす味でもおいしく頂けます。お正月料理にいかがでしょうか。

編集・発行 公立岩瀬病院 広報委員会(広報誌発行部会)

〒962-8503 福島県須賀川市北町20番地

Tel 0248-75-3111 Fax 0248-73-2417 E-mail koho@iwase-hp.jp